

令和4年10月27日

保護者の皆様へ

大阪産業大学附属高等学校

校長 平岡 伸一郎

## 2021年度 アンケート結果のご報告

秋冷の候、保護者の皆様にはますますご清祥のことと存じます。平素は本校教育活動に深いご理解とご支援をいただき、誠にありがとうございます。さて、学校教育法の改正に伴い学校評価が義務づけられるようになりました。本校では生徒に「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」「学校生活についてのアンケート」とともに、授業科目ごとの「授業アンケート」を実施しています。2021年度のアンケート結果を踏まえて、その分析と今後の課題を明らかにします。なお、アンケートは、3学期に実施しており、高校3年生は卒業式を迎える直前で登校していないので、1年生・2年生を対象にしています。

### 1. 「授業アンケート」の結果について

「授業アンケート」の結果は別表の通りです。アンケート結果については、各教科担当の教員に担当クラスごとに結果を戻し、自身の授業内容についての「振り返り」の材料として、次年度の授業内容の改善に役立てるようにしています。

Q3「授業はわかりやすいですか」の質問に約90%の生徒が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答し、Q4「授業は工夫されていますか」の質問に対しても、Q3の回答と対をなすような回答をしています。教員の授業に対する周到な準備が授業の分かりやすさに結びついているといえそうです。

授業の工夫といえば、少し前までだと色チョークなどを駆使し、簡潔で分かりやすい板書を作成したり、手作りの教材を作ったりでしたが、今やICTの発達により、以前より手の込んだ、視覚に訴える教材を比較的容易に作成できるようになりました。ICT教育の効果については、まだまだ不透明な部分が多いですが、ICTが普及拡充していく中、従来の教育方法に固執したままだと教育内容が停滞するのは火を見るより明らかです。本校でもICTを有効活用し、授業に工夫を凝らしていきたいと考えています。その点に関していえば、学校評価アンケートのQ25「この学校の先生は、プロジェクターなどICT機器を積極的に活用している」では、約90%の生徒が「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答しています。本校教員のICT教育への取り組みに、生徒が一定の評価をしている数字といえますが、これに満足せず、ますます発達していくICTに学校・教員がしっかり向き合い、生徒に楽しくよくわかる授業を作り上げていきたいと思えます。

Q6の「授業は参加しやすいものですか」にも「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答が90%を超えています。教師が生徒の意欲・関心を喚起するために授業に参加しやすい雰囲気作りをしていることがわかります。来年度から改定される学習指導要領では、教師が生徒に知識を伝達する従来の講義形式から、生徒たちが自ら設定した課題を解決していく「主体的対話的で深い学び」の実践が提唱されており、教師には生徒が主体的に学び、行動を起こせるような調整役を求められるようになっていきます。

今後の教育は生徒が参加するのが前提となっているので、これまでの「参加しやすい」授業から、生徒が「参加している」ことを実感できる授業への転換が必要です。

「授業のルールを守るように先生は注意していますか」「先生は、授業時間を守っていますか」の質問に対して、「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の回答はそれぞれ5%前後となっており、教員が生徒に対して真剣な態度で授業に臨むことを要求しつつ、自身も自分を律する姿勢を生徒に示していることがうかがえます。

## 2. 「授業を受ける態度と学習についての自己評価アンケート」の結果について

授業を受ける態度についてのQ1からQ6のどの質問に対しても、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の回答の数字が80%を超えています。なかでもQ4「授業中にノートをとる」では、「よくあてはまる」「ややあてはまる」がほぼ100%となっています。特に1年生は特進系列でも進学系列でも「よくあてはまる」と90%以上が回答しており、授業に対する取り組みの良さが際立っています。授業ノートは教科担当者からしばしば提出を求められ、評価点に加えられることもあって、他の取り組みよりも高くまっています。ノートをしっかり取るように取り組むことで授業への集中力は高まるので、今後もこの姿勢を継続してもらいたいものです。

Q8「授業に積極的に参加している」に対して、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の数字がほとんどの学年・コースで80%を越えています。先ほどの授業アンケートであげた「授業は参加しやすいものですか」の質問に対する肯定的な回答が高かったことに対応したものとなっています。これまでは「授業は参加しやすいものですか」に対する肯定的な回答が多くても、「授業に積極的に参加している」の質問に対する肯定的な回答は高くなかったので、教員の授業に参加しやすい雰囲気作りが功を奏しているといえそうです。

Q7「先生からほめられることがある」の質問に対する回答は、他の質問に比べて「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」の数字が高くなっています。今の生徒たちは本校生徒だけでなく、国全体で見ても自分に自信が持てなく、自己肯定感が低い生徒が多いです。そうした生徒たちにきちんと自信を持ってもらうためにも教師から生徒へ積極的に声かけをしていかなければと思います。

学習についての自己評価では、Q10「宿題や課題があればきちんと取り組んでいる」の質問に対し、「きちんと取り組んでいる」「だいたい取り組んでいる」の回答が90%を超えており、自分に課せられた課題はきちんとやるものであるという意識は浸透しているようです。一方、「家庭学習にすすんで取り組んでいる」の回答は学校が期待している数字を満たしていませんでした。課題を出されればするが、そうでなければ積極的にはしないということが浮き彫りになっています。興味がわく授業、理解できる授業があれば、「もっと知りたい」「理解できるからもっとこの教科の成績を上げたい」という気持ちになり、家庭学習に取り組む意欲がわくと思います。生徒たちの知的好奇心をくすぐる授業を展開していくことが必要と思われます。

### 3. 「学校生活についてのアンケート」の結果について

Q14「この学校の生徒は、挨拶をきちんとしている」の質問に、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒は85%、進学系列の生徒だけに限ると90%と肯定的な数字が高くなっています。本校の生徒が挨拶をきちんとする理由として、運動クラブの生徒が礼儀正しく、その他の生徒の良き模範となっているという点と、教員も生徒に自ら積極的に挨拶を行っているので、生徒もそれにならって、という点が考えられます。生徒が挨拶を明るくハキハキとする校風は、自然と生徒を学校生活に対して前向きにさせるようで、Q15「この学校の生徒は、学校生活に積極的に参加している」という質問に対しても「よくあてはまる」「ややあてはまる」と87%の生徒が回答しています。2つの質問に対して、進学系列の生徒の回答が特進系列の生徒の肯定的な回答の数字を上回っているのは、クラブに所属している生徒の割合が進学系列のほうが多いのが理由だと思われます。

Q17からQ19までの「校則やルールを守っている」の質問に対しては、肯定的な数字が約80%となっています。これを見ると生徒たちの中にルールは守らなければいけないという意識はあるようです。しかし、マナーやモラルを守ろうという意識まで高められているかということ、彼らの日頃の行動を見てみると疑問符がつかます。周りに流されず、自分の価値観・判断力をしっかり磨いていってほしいと思います。

Q20「この学校は、いじめを許さないようにしっかり取り組んでいる」、Q22「この学校は、進路についての情報をよく知らせてくれる」、Q24「この学校の先生は、生徒指導にしっかり取り組んでいる」の質問に対しても「よくあてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な回答が約90%となっています。

いじめについては、人権教育推進部が定期的を実施する「いじめ実態調査」、春・秋に「人権週間」を設け、生徒への人権意識向上の啓発を行っていることへの評価。進路情報については、進路指導部が窓口となり行っている系列校の大阪産業大学との高大連携の取り組みへの評価。生徒指導については、生徒指導部が全教員と連携して毎日行っている登校指導や定期的に取り組んでいる登下校指導、各学年で取り組んでいる昼休み・授業開始前の巡回などを高く評価してくれたものと思います。

以上、各種アンケートの分析結果を簡単に報告させていただきました。分析結果を総括すると、教師の授業内容、指導態度には多くの生徒が満足しているようです。授業を受ける生徒側の態度についても基本的なルールは守ろうとする姿勢が表れており、そうした姿勢は家庭学習の取り組みにも表れ、宿題や課題はやるものだという意識を多くの生徒が持っています。また、学校生活についても積極的に前向きに取り組んでくれているようです。実際、本校生徒は素直で明るく、学校生活を楽しそうに送っているように見えます。その様子は教員として微笑ましく感じる一方で、まだまだ本来持っている能力を発揮していないように感じます。本校生徒には現状に甘んじることなく、自己の本来持っている力を高めていこうとする食欲さを持ってもらえればと考えています。